

【2020年度 北海道ブロック会議報告書】

幹事館名	札幌市青少年科学館
開催日時	2020年11月8日
開催方法 参加人数	書面開催（補助としてメーリングリスト） 14館
<p>報告内容：</p> <p>北海道ブロックでは移動距離や天候を考慮し、例年秋ごろにブロック会議を開催しているが、2020年度は新型コロナの影響により、加盟館と調整し、延期は困難であると判断し書面開催とした。</p> <p>オンライン会議も検討したが、対応が難しい館もあり、書面による情報交換を主とし、補助的にメーリングリストで意見交換を行う仕組みとした。</p> <p>各館の上半期の事業報告書と調査票をもとに情報交換を行った。主な情報は以下のとおり。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染防止対策の取り組みについて 事業を行う上での対策について、各館の取り組みを紹介した。 多くの館では大規模事業の中止、マスク着用や消毒・換気の徹底、定員の縮小などの対策を設けていた。また、天体観望会で、は紙コップに穴を開けたものを望遠鏡のアイピースに被せて覗いてもらうなど、科学館らしい事業の対策も紹介された。 連携協事務局より、「日本科学未来館 COVID-19 対策マニュアル」や「手洗いの効果」のポスターデータなどの情報提供をいただいた。</p> <p>(2) 展示物の更新について 加盟館の多くは展示物が老朽化しているため、展示物の更新に関する情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した展示物の撤去費用もままならないことから、木材で囲むことで展示「台」として使用するなど再活用をしている。 ・各館の展示物の制作・保守業者の情報について ・展示物の入れ替えによる、他館への展示物の譲渡・貸与の可能性 	

【2020年度 東北ブロック会議報告書】

幹事館名	盛岡市子ども科学館
開催日時	2021年3月23日（書面開催の結果報告日）
開催方法 参加人数	書面開催 17館
<p>例年行っている第1回ブロック会議(サイエンスショーやワークショップの実務者研修会)は、一堂に会しての実施が困難と判断し中止とした。開催予定施設は、山形県産業科学館であった。</p> <p>第2回ブロック会議は例年所属長クラスが集まり共通のテーマ等について協議していたが2020年度は書面での開催とした。以下にその概要を記載した。</p> <p>1 新型コロナウイルス感染症対策アンケートを実施して各施設の対策を共有した。 この結果を施設の運営に役立てることをねらいの一つとした。 アンケートの内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの侵入を防ぐ対策 周知方法, 消毒液の設置, サーマルカメラ, 非接触型検温器 ・密閉空間, 密集場所, 密接場所の発生を回避する対策 入館者数の制限, 団体人数の制限, 滞在時間の制限, フロアサイン, パーティション ・接触感染, 飛沫感染を防ぐ対策 非接触型スイッチ, 抗ウイルスコーティング, 定期的な消毒, シールド, トレイ ・日本博物館協会のガイドライン等で推奨されている対策 COCOA等の通知サービス, オンラインチケット, キャッシュレス決済 障がい者手帳のデジタル化対応 <p>2 各施設の情報提供願いたい事項について書面で情報提供を行い今後の運営の参考とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染症対策のガイドラインやマニュアルの作成。 また, これらの外部への発信方法。 ・感染急増地域からの団体受け入れ対応。 ・職員の勤務形態。(テレワークや時差出勤など) ・人数制限を行う際の数値の基準。 ・中止したイベントと継続したイベントの判断基準。 ・コロナ禍継続を想定した展示やイベントの具体的な方策。 ・Webコンテンツなど展示について一般公開用に作成したもの。 ・新型コロナウイルス感染症に関する閉館の指標や期間。 ・入館状況の昨年度比較と変化。 ・感染リスクを抑えながらの集客方法。 ・運営上役に立った補助事業。 ・見学型の体験型へ移行する際のコスト対効果。 ・収蔵品の管理方法, 管理状況。 <p style="text-align: right;">以上：文責 盛岡市子ども科学館 浪岡潤一</p>	

【2020年度 関東ブロック会議報告書】

幹事館名	千葉市科学館
開催日時	2020年12月26日(水)～2021年1月31日(日)
開催方法 参加人数	書面開催 35組織
<p>報告内容：</p> <p>【概要】</p> <p>当初は千葉市科学館での開催を考えていたが、コロナ禍が収束しない状況を受け、書面開催とした。議題としては、次期幹事館の承認・決定とともに、現状で加盟各館が取り組んでいるさまざまな運営・対応・工夫の情報を共有し、それぞれが今後の運営に生かす機会とした。</p> <p>【開催報告】</p> <p>1. 次期幹事館の承認</p> <p>平成31年4月施行の「全国科学館連携協議会関東ブロック幹事選出等に関する要綱」に基づき、「東京都①」のエリアから「就業職員数が概ね10人以上、年間入館者数が10万人以上の会員の中から選出する」という基準に基づき、次期幹事館候補を審議した。関東ブロック所属会員の過半数以上の承認を得て、2021～2022年度の関東ブロック幹事館は多摩六都科学館に決定した。</p> <p>2. 各組織の情報共有</p> <p>アンケート形式でコロナ禍にある各会員の運営状況のヒアリングを行い、57加盟館中35の会員から回答を得た。</p> <p>運営状況は、従来どおりが15、休館日や開館時間の変更が10、休館中が8、該当しないが2となった（リニューアル休館2会員含む）。開館している25会員において、24会員で展示物を一部休止。「声を出す」、「狭小空間に立ち入る」、「触れる機会が多い」といった感染防止対策が困難である理由が多かった。</p> <p>定員に関しては概ね半分以下としているケースが多く、入館・入場時の検温やマスク着用はほとんどの会員で実施。来館者の記録は、全来場者、教室等のみ、記録なしなど分かれた。建物内での来場者の食事も禁止しているところが多い一方、団体のみ禁止、団体のみ可と対象によって異なる場合もあった。</p> <p>入場制限や開館時間短縮で活動の場が減っていることに対し、オンライン展開に力を入れている会員が多かったが、開館と並行してのオンライン事業は予算や人員等の配分で苦労している会員が多く、共通の課題と思われた。</p> <p>講座や教室等は、開催・定員数減で全体の受け皿が小さくなったため、申込が集中して高倍率になっている傾向がみられた。学校団体利用はキャンセルが増えた一方、来館実績のない団体からの申込が増えたケースもあり、これも受け皿の減少で訪問先を変えているためと思われる。</p> <p>立地が公園内や複合施設内の会員館では、トイレ利用など、科学館の直接の利用者以外からのクレーム対応に苦慮するケースも見られた。</p> <p>3. 幹事館の所感</p> <p>懸案であった幹事館の交代が順調に進み、安堵した。</p> <p>ヒアリング結果は、地域や会員の属性による違いはあるものの、互いの取り組みをwithコロナ時代に対応するミュージアムの有り様の発展につなげていきたい。</p>	

【2020年度 東海ブロック会議報告書】

幹事館名	静岡科学館・名古屋市科学館
開催日時	2021年2月17日（水）13時～16時
開催方法 参加人数	Zoom を用いたオンライン形式 東海ブロック 12 館、東海ブロック以外から 4 館及び連携協事務局
<p>報告内容：</p> <p>概要：昨年度中は、研修会の開催場所として岐阜県先端科学技術体験センターが検討されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、幹事館の名古屋市科学館と静岡科学館で相談の上、オンラインでの実施に変更した。研修会のテーマは「動画製作と SNS」とし、当日は「研修参加館のコロナ禍開館状況報告」「動画制作の手法の事例発表」「講演会」「事前アンケート質疑」について行った。</p> <p>研修参加館のコロナ禍開館状況報告：研修会の冒頭に、参加館及び自己紹介を兼ねて、各館のコロナ禍での開館状況や新型コロナウイルス対策について紹介してもらった。各館ともに、入館時の消毒や検温、定員・入室・入館制限、換気、会場の変更など三密対策をそれぞれの館の状況に応じて行った。ただ、総じて例年に比べての来館者数減少が顕著であった。</p> <p>事例発表「動画制作の手法」：事例発表は、臨時休館を機に YouTube などの動画投稿サイトを利用し始めた施設が多く見受けられた。各施設の特徴を活かした様々な動画が公開されていることから、動画制作における手法や工夫、また裏話などを共有し、よりハイレベルな動画制作のノウハウを共有することを目的として「動画制作の手法」をテーマに行った。静岡科学館、浜松科学館、名古屋市科学館の 3 館が事例発表を行った。静岡科学館は、展示担当による館内で楽しめる展示体験アイテムの紹介と、企画担当によるスタッフが一押しする科学映像について、動画作成の環境やシナリオの工夫、撮影の仕方など気をつけている点を紹介した。浜松科学館は、3 月から 5 月まで休館日を除いてほぼ毎日配信した 80 本の動画について、コンセプトやテーマ設定の仕方、学校の授業で用いられるなどの配信の反響について紹介した。名古屋市科学館は、学芸員を活かした動画づくりと天体観望会ライブ配信について、学芸員の専門性をサイエンスショーの手法やクロマキー合成を取り入れた工夫、ライブ配信の機材やメリットを紹介した。</p> <p>講演会「SNS フレンドリーなミュージアム環境の構築に向けて」：講演会は、SNS をミュージアムがどう活用していくかについて、全国科学博物館協議会などでも発表されている岡本真氏に講師を依頼した。ミュージアムの SNS で話題になった事例をケーススタディに、自分たちでバズらせるよりも、エピソードや見栄えのする展示の仕方、来館者が投稿したくなる工夫、評判の把握と SNS に踊らされないこと、科学館が SNS を使って何を表現したいのか、グランドデザインはどうするのかなどについて、参加者からの質問を交えつつお話いただいた。</p> <p>各館のコロナ対策等事前アンケート：事前に東海ブロック研修会の案内と共に、新型コロナ対策と動画配信についてのアンケートを行った。コロナ対策については、消毒や検温、マスクの着用などはほぼ全ての館で行われていたが、入館時の個人情報収集や入館制限、来館予約については館によって対応が分かれていた。こうした結果を踏まえ、参加館からは、マスクの着用をしてくれない来館者への対応や 2 歳以下は免除している根拠、再生数以外の動画の評価などについて質疑が交わされた。</p>	

【2020年度 近畿ブロック会議報告書】

幹事館名	神戸市立青少年科学館
開催日時	2021年1月26日(火)
開催方法 参加人数	Zoomによるオンライン開催 参加人数：14名

報告内容:

①講演「新型コロナウイルスの科学」

神戸市立青少年科学館 館長 和田 智明

現在、世界中の人々を苦しめている新型コロナウイルスについて、ウイルスの特徴と人間の体細胞と結合する仕組み、ワクチン開発、国内外の研究の状況等について、最新情報を含め科学的側面から説明した。

②コロナ禍における各館の運営状況について

臨時休館期間、特別展企画展等イベント・ワークショップの開催状況、入館者数の推移、プラネタリウムの座席制限などについて各館から報告、情報共有を行った。

従来のようなイベントやワークショップができない中、オンライン観望会やWebセミナー、YouTubeチャンネルの開設、SNSでの発信、ARやQRでの展示解説、アバターロボットの活用など、オンラインや非接触による展示や発信にチャレンジした館も多かった。Co2センサーを購入し密集度を測定したり、換気用ダクトを購入するなどして、換気率を上げる工夫をした館もあった。

③各館が取り組む地域連携について

・神戸市立青少年科学館

2019年度より開催している「ポートアイランドサイエンスフェスティバル」を、近隣の研究機関・施設・学校団体の協力を得て開催。ワークショップも事前申込者のみなど制約される中ではあったが実施した。近隣施設と月1回の会合も開いており、お互いの集客アップにつながる相互連携の取り組みを、今後も続けていく。

・伊丹市立こども文化科学館

日食イベントを市内東西南北の公共施設とコラボした取り組みを発表。

4つの公共施設に科学館職員が各2名程度で出向き、住民が最寄りの公共施設で日食を観察できるような地域連携を実施した。

【2020年度 中四国ブロック会議報告書】

幹事館名	徳島県立あすたむらんど子ども科学館
開催日時	2020年12月10日(木) 12:50～16:30
開催方法 参加人数	オンライン開催（「Zoom」を使用） 加盟館 15名（6館）、招待講演講師 1名、事務局 1名、合計 17名
<p>報告内容：</p> <p>報告 各館情報交換（入館者数の状況、特別展開催状況など） 各館による入館者数の状況、特別展開催結果などの報告及び質疑応答を行った。各館とも入館者は昨年度とくらべ2～4割程度に大きく減少、特別展についてはGW期間中止（または延期）した館が多く、夏については開催した館が多いが利用者は前年に比べ大きく減少している。コロナ禍を受け体験型の展示を中止し鑑賞型の展示を企画する館が増えた。防府市青少年科学館では錯視に関する企画展を実施した。岡山の作家の作品が中心のため中四国ブロックの館での巡回展なども検討したい。</p> <p>協議① コロナ禍における各館の運営状況について 各館ともに全国一斉の緊急事態宣言に伴い臨時休館となった。再開後も、体験型を伴う展示物や密が避けにくい展示物については休止、プラネタリウム等の座席数削減等の対応を行っている。入館時についても、手指の消毒や検温・利用者シートの記入など対応している。科学教室やワークショップについては、定員数の削減や整理券配布など行い利用者数を制限している。また、どの館においても臨時休館中にSNSや動画配信を新たに始めており、すでにアカウントがある館は発信を強化するなどしている。</p> <p>協議② 各館が取り組む地域連携について 科学の祭典をはじめ、各館ごとに近隣施設や地域の学校・企業と連携した事業を実施している。しかし、今年度については感染症の状況により従来の方式での開催は取りやめる館も多くあった。それに伴いZoom等を利用したオンラインでの取り組みなども進められている。また、アクティブシニアの方々が多く活躍されているボランティアについても意見が交わされた。</p> <p>講演 講師：福島大学 共生システム理工学類 教授 岡田 努 氏 テーマ：地方の科学館が取り組む地域連携の手法を考える ～ふくしまサイエンスぷらっとフォームの事例から～</p> <p>福島県内の科学館や大学・研究機関の連携の事例をもとに地域連携に対する考え方や取り組み方をご紹介いただいた。</p>	

【2020年度 九州ブロック会議報告書】

幹事館名	佐世保市少年科学館
開催日時	2020年10月30日(金) 13:30~16:30
開催方法 参加人数	Webexによるオンライン会議 連携協事務局1名、加盟館10館(視聴のみでの参加1館)
<p>報告内容：</p> <p>(1) 開会行事 13:30～</p> <p style="padding-left: 20px;">幹事館あいさつ【佐世保市少年科学館 館長 伊藤裕子】(以下、敬称略)</p> <p>(2) 協議【資料をもとに】14:00～16:00</p> <p style="padding-left: 20px;">① 全国連携協幹事会報告【佐世保市少年科学館 館長 伊藤裕子より】</p> <p style="padding-left: 40px;">・別資料を基に報告。</p> <p style="padding-left: 20px;">② 2019年度九州ブロック会議報告及び収支報告等</p> <p style="padding-left: 40px;">【2019幹事館 福岡市科学館 様より】</p> <p>※事前に提出していただいた資料を共有し、下記③～⑤の内容報告について、自己紹介を含め各館10分程度で順に行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">③ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休館について</p> <p style="padding-left: 40px;">・各館の休館状況：1ヶ月1館、2ヶ月4館、3ヶ月5館、4ヶ月1館</p> <p style="padding-left: 40px;">・地域と館の規模と状況によって差。段階的な開館の状況を確認。</p> <p style="padding-left: 20px;">④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止による館の運営状況</p> <p style="padding-left: 40px;">・ハサミ等の消毒 ・検温・マスク着用及び利用者カード記入</p> <p style="padding-left: 40px;">・非接触型体温計での測定 ・座席間隔を空けて観覧 ・展示は見学のみ</p> <p style="padding-left: 40px;">・受付にアクリルボードやビニールシートを設置 ・入館者の人数制限</p> <p style="padding-left: 40px;">・人気のコーナーは時間制限を実施 ・イベント中止 ・換気の工夫</p> <p style="padding-left: 40px;">以上の対策の工夫の紹介があった。</p> <p style="padding-left: 20px;">⑤ 台風などの災害時の影響について</p> <p style="padding-left: 40px;">・臨時休館はあったものの、大きな影響なし。(熊本も含む。)</p> <p style="padding-left: 20px;">⑥ その他</p> <p style="padding-left: 40px;">・コロナ禍におけるイベント等での配慮事項・具体的事例について</p> <p style="padding-left: 40px;">・with コロナ時代の連携協の考え方について</p> <p style="padding-left: 40px;">・コロナ関連での収益の落ち込みに関する補填の状況、利用者減に対する対策について</p> <p>(3) 次年度以降の「九州ブロック会議」の在り方</p> <p style="padding-left: 20px;">・次年度以降の在り方について</p> <p style="padding-left: 40px;">① 収束するまでオンライン . . . 6票</p> <p style="padding-left: 40px;">② オンラインが基本 . . . 1票</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 従来通り幹事館に集合 . . . 2票</p> <p>※ 収束するまではしょうがないが、状況が可能であれば来館し、幹事館の運営等を学び、交流を深めたいという意見が多数であった。</p> <p>※ オンラインであれば、会議の回数を増やしても良いのではないか。</p> <p style="padding-left: 20px;">・2021年度幹事館の確認：雲仙岳災害記念館が幹事を担当。</p> <p>(4) 全国科学館連携協議会事務局(日本科学未来館様)より</p> <p style="padding-left: 20px;">【連携協事務局 原 様】</p> <p style="padding-left: 40px;">・開催に関する謝辞、諸連絡等</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	